

# 昭和60年度沖縄周辺重要水産資源調査

喜屋武 俊彦

## 1. 目的

沖縄周辺海域で、網漁業、釣漁業の対象となる主要魚種について、資源調査を恒久的に実施し、それぞれの資源の生態、資源の変動法則を明らかにして、沿岸、近海漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

## 2. 調査の概要

### (1) 個体生態調査

漁獲物を通じて成長と年齢、成熟、系統群、回遊等について知見を得る。

- ① 体長測定調査
- ② 体長・体重調査
- ③ 胃内容物・生殖腺調査

### (2) 漁獲量調査

- ① 水揚げ地調査

## 3. 調査の実施状況

### (1) 実施機関 沖縄県水産試験場 漁業室

担当者 喜屋武俊彦

### (2) 調査対象魚種、調査項目

#### ① カツオ類

水揚げ地調査

#### ② タカサゴ類

体長・体重測定調査、胃内容物・生殖腺調査、水揚げ地調査

#### ③ アイゴ類

体長・体重測定調査、胃内容物・生殖腺調査、水揚げ地調査

### (3) 鮮魚取扱い市場水揚げ量調査

主要魚協市場水揚げ量調査、主要魚種水揚げ量調査（市場：沖縄県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協、魚種：ハマダイ、ハマフエフキ、スジアラ、アオリイカ）

## 4. 調査結果

### (1) ひき縄（糸満漁協）

糸満漁協市場に水揚げされるひき縄の総水揚げ量は1975年以降25トンから55トンの間を増減しながら横ばい傾向で推移してきたが1985年は急激に増加した。この年の総水揚げ量は191,736 kg、有漁日数は273日、延べ水揚げ隻数は2,592隻、1日1隻当たり水揚げ量は74.0 kgであった。前年に比較すると、総水揚げ量は4.8倍、のべ水揚げ隻数も4.1倍で大巾に増加、有漁日数は102日増

表一 1 ひき縄漁業月別水揚げ量 (糸満)

単位: kg

項目	年		月												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
有漁日数	84	3	2	7	21	21	22	23	10	19	21	12	10	171	
のべ水揚げ 隻数	85	21	20	26	24	27	22	25	19	24	21	24	20	273	
	84	4	2	12	82	66	95	96	15	160	58	24	13	627	
	85	74	78	108	223	466	249	586	256	285	102	113	52	2,592	
カツオ類	84	60.2	150.2	85.0	348.1	84.0	168.1	190.2	19.4	163.8	472.6	164.3	101.6	2,007.5	
	85	944.0	1,015.7	3,319.8	3,686.9	2,933.5	1,768.6	4,512.6	1,215.2	1,206.4	309.4	212.1	232.9	21,357.1	
マグロ類	84	4.8	0	9.2	373.3	320.4	372.7	123.8	57.6	689.2	637.5	303.2	339.8	3,231.5	
	85	1,933.0	2,243.0	5,138.4	8,700.1	10,786.8	6,209.9	14,335.8	8,270.3	12,625.6	3,550.1	3,853.0	3,638.8	81,284.8	
サワラ類	84	0	7.0	0	28.0	110.0	572.4	637.2	140.4	2,831.8	372.6	5.6	7.0	4,712.0	
	85	129.8	24.0	24.0	457.5	2,480.2	1,343.0	4,628.6	2,443.8	1,268.9	490.4	158.4	0	13,448.6	
シイラ	84	0	0	1.8	277.4	149.4	152.8	10.6	14.2	169.6	71.2	41.7	29.8	918.5	
	85	1,066.2	1,530.8	619.4	3,891.4	3,937.0	1,039.0	77.2	100.8	931.6	1,520.2	794.7	69.2	15,077.5	
カジキ類	84	0	0	0	5,586.9	7,715.5	6,160.5	7,430.0	785.4	520.8	0	0	0	28,199.1	
	85	45.2	0	301.5	3,551.0	18,502.8	12,092.0	14,781.5	2,036.0	6,415.0	984.9	0	0	58,709.9	
その他	84	40.4	3.6	75.4	184.5	484.3	125.1	98.5	0	64.5	44.0	5.4	20.1	1,145.8	
	85	0	0	0	0	109.0	0	0	0	0	763.2	852.8	133.1	1,858.1	
合計	84	105.4	160.8	171.4	6,798.2	8,863.6	7,551.6	8,490.3	1,017.0	4,439.7	1,597.9	520.2	498.3	40,214.4	
	85	4,118.2	4,813.5	9,403.1	19,786.9	38,749.3	22,452.5	38,335.7	14,066.1	22,447.5	7,618.2	5,871.0	4,074.0	191,736.0	
1日1隻当 水揚げ量	84	26.4	80.4	14.3	82.9	134.3	79.5	88.4	67.8	27.7	27.6	21.7	38.3	64.1	
	85	55.7	61.7	87.1	88.7	83.2	90.2	65.4	54.9	78.8	74.7	52.0	78.3	74.0	

加したが、1日1隻当り水揚げ量は前年比115%で若干増加したにすぎなかった。平年値(1975-1984年)に比較すると、総水揚げ量は5.1倍、のべ水揚げ隻数は2.3倍、1日1隻当り水揚げ量は2倍でそれぞれ大巾に増加した。この大巾な水揚げ量の増加は、1984年11月に3基、1985年には7基の浮魚礁(通称パヤオ)を沖縄南部沿岸の水深1,000~1,500m付近に設置し、その集魚効果がみられたためであった。なお、パヤオは1985年度中までに160基以上沖縄近海に設置されている。

(表-1、図-1)

魚種別水揚げ量を見ると、カツオ類は1973年の18トンから増減をくりかえしながら減少傾向で推移し、1984年は最低の2トンまで減少した。しかし1985年の水揚げ量は21,357kgで1973年以上の水揚げ量であった。前年に比較すると10.7倍、平年(1973-1984年)に比較すると2.4倍で大巾に増加した。盛漁期は7月(平年5月)であった。水揚げされたカツオ類はカツオが主で、他にスマ、ソーダカツオ類であった。(表-1、図-2)

マグロ類は1975年以降15トン以下の水揚げ量で、横ばい傾向で推移してきた。しかし1985年には81,284kgの水揚げ量で前年に比較して25.2倍、平年(1975-1984年)に比較して12.8倍で、非常に大巾に増加した。盛漁期は7月(平年9月)であった。マグロ類は10kg以下のキハダ(シビ仔)が75%を占め、他は10kg以上のキハダとクロマグロであった。10kg以上のキハダとクロマグロは4-7月に多く水揚げされた。(表-1、図-3)

サワラ類は1977年をピークに減少傾向で推移し、1985年には13,448kgの水揚げ量で、前年に

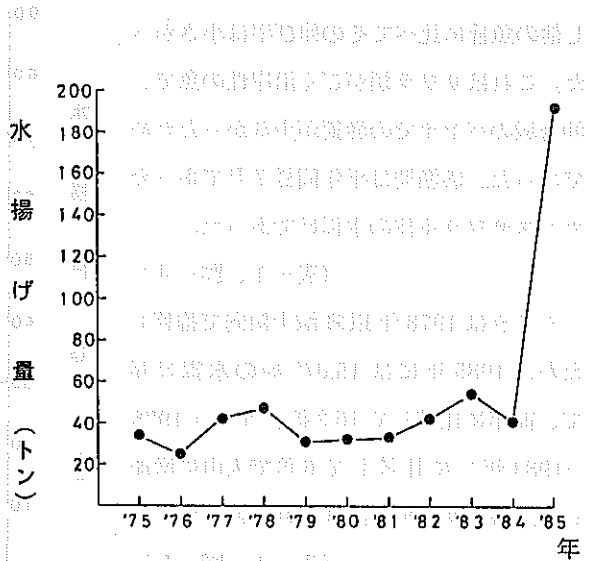


図-1 ひき縄総水揚げ量経年変化(糸満)

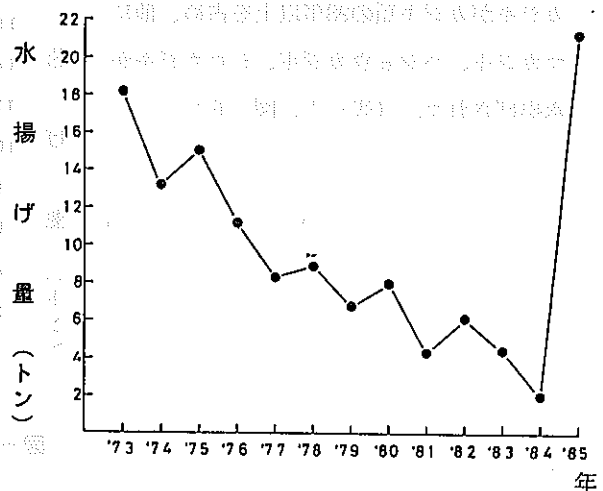


図-2 カツオ類水揚げ量経年変化(糸満)

比較して2.9倍、平年（1975 - 1984年）に比較して2.4倍で大巾に増加した。しかし他の魚種に比べてその伸び率は小さかった。これはサワラ類がごく沿岸性の魚で、沖合域のパヤオでの漁獲が少なかったためであった。盛漁期は平年同様7月であった。カマスサワラ主体の水揚げであった。

（表-1、図-4）

シイラは1978年以降減少傾向で推移したが、1985年には15,077kgの水揚げ量で、前年に比較して16.3倍、平年（1975 - 1984年）に比較して6倍で大巾に増加した。盛漁期は平年同様5月であった。

（表-1、図-5）

カジキ類は1978年以降急激な増加傾向で、1985年には58,709kgの水揚げ量で、前年に比較して2.1倍、平年（1978-1984年）に比較して4倍で大巾に増加した。盛漁期は前年、平年同様5月であった。クロカジキがカジキ類の98%以上を占め、他にマカジキ、バショウカジキ、シロカジキが水揚げされた。（表-1、図-6）

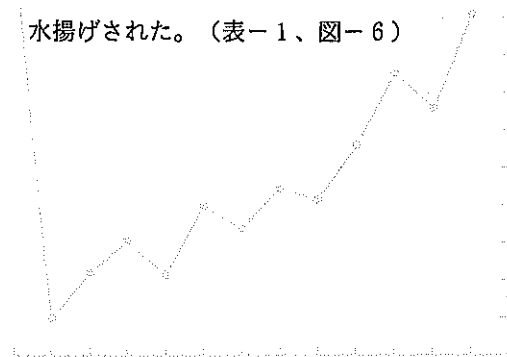


図-6 カジキ類の水揚げ量経年変化 (糸満)

(単位) 100kg単位で表示した値

（注）1975年～1977年までは、水揚げ量が0kgであったため、この期間の水揚げ量は、0と表示した。

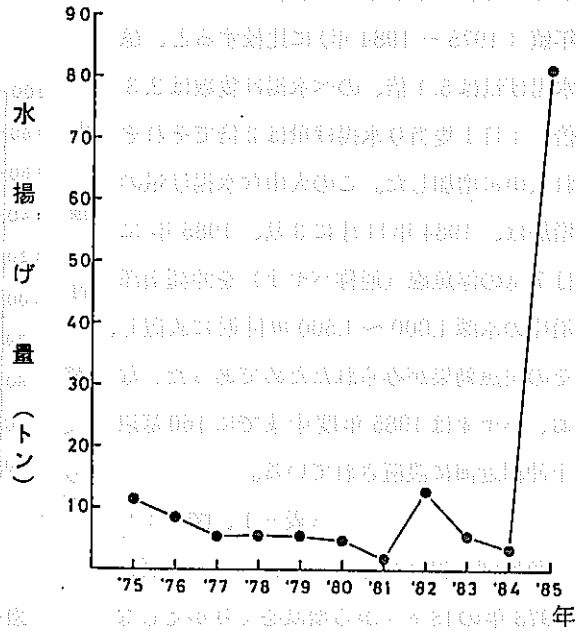


図-3 マグロ類水揚げ量経年変化 (糸満)

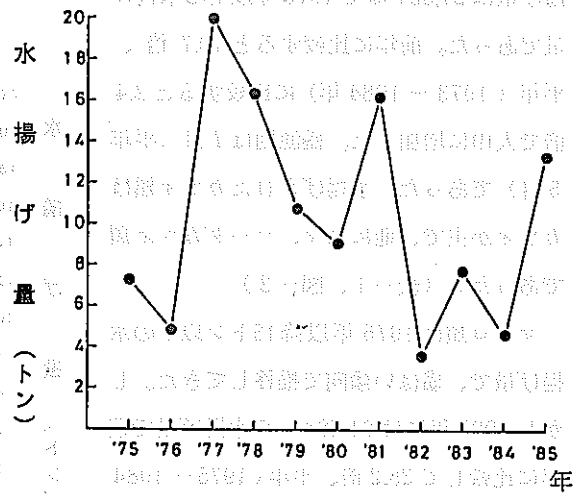


図-4 サワラ類水揚げ量経年変化 (糸満)